



税金の現状

大田区立東蒲中学校 三年 岩崎 理人

二〇一九年の十月、消費税が八パーセントから一〇パーセントに上がった。これに対し、世間では賛否両論あるが、反対意見が多く感じた。しかし、デンマークの消費税は二十五パーセントもある。だが、「税金が高すぎる」という人は誰もいないらしい。この違いはどうして生まれるのだろうか。

まず、前提として日本での税金の使い道を知っておく必要がある。身近なもので税金が使われているものをあげるとするならば、学校で使う教科書などの教育費や道路の設備費である。しかしデンマークでは、日本で使われていないことにも税金が使われている。例えば、デンマークでは幼稚園から大学までの教育費が無料となっている。また、大人であろうと病院の受診料がかからない。高い税金を払うことにより、国民の負担が軽くなっているのだ。そのためデンマークでは国民の幸福度が高くなっていると言われている。ここが日本との決定的な違いであるといえるだろう。

ではなぜ、日本は消費税を上げるのかと思う人もいるかもしれない。酒税やたばこ税など、消費税以外にも税金の種類はたくさんある。そう

いった税金を増やす方が、国民全体の負担が軽くなるのではないかと、と思う人もいるかもしれない。確かに消費税を上げなければ、税が負担となる人も少ないかもしれない。しかし、その他の税金だと、新たな問題が発生してしまうのだ。例えば、所得税が上がったとする。それにより働く人の意欲が下がり、結果的な税収が少なくなる可能性がある。それに対し、消費税は買い物をするすべての人が税を払う対象となるため、消費税を上げた方が手っ取り早く税収が増えるのだと思う。

デンマークで税に対する不満が少ないのは、財政民主主義という考え方が根付いているからだといえる。デンマークでは議会以外でも、学校や地域などで、政治についての議論が日常の様々な場面で行われている。子供達も日常的に政治についての関心を持っている。それに対し、日本では政治についての関心も薄く、主観的な考えになりやすい。デンマークとは対照的になっているのだ。

このようなことから、日本とデンマークでは税金に対する意識が異なると考えた。日本では、子供が直接税に触れる機会が著しく少ない。小学校や中学校でも、高校の文化祭のように、実際に物の売買をする機会を設けることで、子供のうちからお金に対して興味を持つことができる。それにより、子供のお金に対する知識も増え、税に対する意識も変わりの結果的に無駄な税の使われ方が見直されるだろう。つまり、日本人の税に対する不満を取り除くには、小さい頃から税について話し合う環境を作ることが大切だ。そうすることで、よりよい日本の未来を同時に作り上げることができるだろう。